

## 平成27年度第3回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会会議録要旨

**<日時>** 平成28年2月5日（金）午後1時25分～3時15分

**<開催場所>** ぱれっと 会議室

**<出欠状況>**

藤田	川端	児玉	寺島	戸塚	熊谷	原沢
○	○	欠席	○	○	○	欠席
山中	関野	亀卦川	大原	田中	根本	岩田
○	欠席	○	○	○	○	欠席
山口						
○						

**<事務局>**

子育て支援課長 学校教育課長 子育て支援課副課長

**<傍聴人>** 0名

**<次第>**

1 開 会
2 会長あいさつ
3 議 題 (協議事項)
(1) いじめ防止対策の連携について
(2) 報告事項
4 事務連絡
5 閉 会

**<議事>**

- 1 開 会 子育て支援課長
- 2 会長あいさつ

(協議事項)

### (1) いじめ防止対策の連携について

事務局より資料確認

【会 長】委員の皆さんにはそれぞれの活動等をご記入いただいています。お手元のアンケートに基づきまして、各委員の皆さんから内容について補足などしていただきながら、ご発言をお願いしたいと思います。なお、それぞれのご説明、補足等含めて5分以内というかたちでお願いします。

\*各団体の活動説明は省略

【会 長】それでは、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

【委 員】教育委員会にお尋ねします。いじめの内容ですが、力の強い子、頭がいいからとか体力があるからとか、スポーツができるからと優位に立った子どもが弱い子どもをいじめているのか、という点。それからわざとや

っているのかどうか。上から言われたことは守ろうとか、そういったことが乱用されてしまうといじめに発展していくとか。実態はどうでしょうか。

【委員】実際のところ、いじめの原因になっているものを特定するのはなかなか難しいところがありまして、今言われたようにそうしたこともそのとおりだと思います。私たちがつかめるのは、まず現象としてつかめることが多いものですから、それでいくと、からかいとか仲間はずれ、そういうようなものが圧倒的にケースとしては多くなっています。

仲間はずれというのは、やはり強い団体が弱い子をいじめる。それも感じている側の問題なので、相手に聞いてみると決して仲間はずれにしている。されている側からすると、そっちの方を見たけど目を合わせてくれなかったということを仲間はずれと感じてしまう。集団で一人だけを明らかに誰から見ても孤立させているというようなことが、頻繁にあるかというところではない。一方で、かかわらないでくれという子どももいます。だから、友だちが休み時間に一人ぼっちでいるから声をかけましよう、教育としては指導します。そうすると、人のいい子はかわいそうだなと思って声をかけますが、そう思われるのが嫌だとか、声をかけられるのが面倒臭いとか。客観的に見れば孤立させているんじゃないかという見方も出てくるので、一概には言えないわけです。

【委員】心を閉ざしている子どもに対する配慮は必要ですね。その子は悪い訳じゃないけど、その部分は教育なり家庭の中で補って、みんなで楽しく集団生活をしようという指導が、私は必要じゃないかなと思うんですけど。

【委員】はい、そのとおりです。

【委員】そこの背景を探っていくというのが大きな課題だと思います。担任が日々の授業をしながらそこまで一人ひとりと綿密に面談ができるかというところ、なかなか厳しいところがあるので、もう少し教員にゆとりがあれば、時間をとって一人ひとりの話を聞く。管理職もそういうところでは努力をしていると思うんですが、背景にあるものをしっかりつかむというのが大きな課題だと思っています。

【委員】学校もご多忙で大変かもしれませんが、不足した部分は教育委員会に申し上げて補っていただくということも必要だと思います。

【委員】学校によっては、民生委員さんに来ていただいて、学校が把握している課題のあると思われるお子さんについて、情報交換しながら地域で見守る、または家庭の様子をわかる範囲で教えてもらおうとかそういう情報交換をさせていただいて、学校の中で見えている子どもの様子と地域での様子が違っていたりすることもあるので、ここにいる方々を中心に関係機関で気がついたことを共有していくことが、いじめの早期発見とか未然防止につながっていくと思います。

【会 長】その他いかがでしょうか。

【委 員】先ほどの放課後児童クラブのお話で、心の度合いをカラーのシールで表すというのは、すごくいいと思いました。言葉が達者な子は自分の状態を話すことができますけれど、そうでない子のフォローができれば、いじめとか寂しい思いとかさせないで済むと思います。

【委 員】SOSミニレターというのはとてもいいと思ったのですが、これはどういうふうに配布されているのでしょうか。学校に配っているのでしょうか。

【委 員】これは法務局から校長会をとおして、学校で配布されています。便箋と封筒がセットになっていて、法務局に届くことになっています。その中で電話がいい、手紙がいいといったチェック項目があって、お手紙がいいという方が多いですけれども、そうすると法務局から人権擁護委員に手紙がきて、返事を書き、人権擁護委員と担当の人の連名でその子に返事が届く形になっています。直接法務局にきて先生を通さない形なので、担任の先生も知らない話だと思います。

【委 員】私が扱った例では、子どもがSOSのレターを送り、法務局からこういう相談が来ましたという連絡をいただいたという場合もありました。

【会 長】その他いかがでしょうか。

文科省からは「いじめのサイン発見シート」というのがあって、保護者が自分の子どもがいじめに遭っていないかを見つける、そういう兆候があるかどうかチェックして確認するもので、学校現場でも活用したりしていることがあるかと思います。

【委 員】市PTA連合会さんが今日はお見えではないですけれども、代わりにお話をさせていただきたいと思います。自由意見記入欄に「虐待や育児放棄による、いじめの加害者、被害者になる可能性はいかがでしょうか？」とありまして、私たち教育現場で預かる者としては、家庭の育児の状況があまり好ましくない、例えば洗濯をまめにしてもらっていない服を着ているとか、食事が十分に与えられていないとかそういうことから子どもの心が傷ついたり、身なりや持っている物で他のお友だちからいじめられたりすることにつながるということが有りうるという認識です。ですから、そういうものを認識した場合には早く家庭と連携を取って、信頼関係がないと難しいところがありますけれども、直接お話をする場合もありますし、学校側が入っていけない場合は、福祉関係の機関と連携をはかりながら、児童相談所に通告というかたちもあります。皆さんご承知だと思いますがDVや虐待等身体的な暴力を受けている場合、連鎖すると言われていています。自分が親になった時に子どもにもしてしまう、その前段階としてはお友だちに手を出すということになってくるわけです。それから、あいさつが大事だというお話がありましたが、正にそうだと思います。家庭の中で会話がなくて言葉が育たず、学校教育だけでは言葉は育ちませんので、上

手く自分の思いを表現できなくて手や足で出てしまうわけです。ですから言葉で表現できる力を育てるということが、人とのかかわりを豊かにすることに大きくかかわってくる。そのあたりが市PTA連合会の自由意見の趣旨かなと思いました。

【会 長】その他いかがでしょうか。

【委 員】色々な意見が出ましたけれども、やっぱり思うのは、どこの団体もいじめ防止に向かって取り組もうという気持ちがあるけれども、元である家庭になかなか入り込めていないというのが、みんなジレンマだと思います警察に通報したとしてもすぐに入り込めるのかということ、それも手順とか色々あるから、すぐに子どもを抱きかかえて出てくるということは、さすがの警察にもできない。やはり色々な対策を練って、子どもに対して啓発をしたりとか、近所で気がついた時のもうちょっとおせっかいがあってもいいのかなと思います。

【委 員】私の年代は平気ですけど、今の世代はやはり難しいと思います。

【委 員】先生方は本当にお忙しくてクラス全員までは手が届かないでしょうから、地域のおばちゃんたちが自分の孫だけじゃなくて、ちょっと通りがかった子にいつも通る子だなと思ったら声をかけてみるとかいった方法も良いかなと思います。

【委 員】いじめ防止という言葉ですが、いじめることを防止するのか、いじめられた側がもっと強くなれないといけないのか、その兼合いがわかりません。やり返さないからいじめられるのか、どういうことでいじめられるのかよくわからないけど、それを跳ね返す強さを植え付けるのも家庭、教育だと思います。色々なケースを見たり聞いたりすると、いったいどうしたらいいんだろうというのが本音です。

【委 員】1～6年生まで色々なクラスがありますけれども、一日勉強が終わりますと帰りの会というのをやります。一日をふり返ったり明日の準備を確認したりする。そういう短い時間ですけど、クラスによっては、今日こんなことをされてうれしかった。とかいった「今日のヒーロー」というコーナーを設けたり、「今日のキラキラ言葉」といって、今日言われてうれしかった言葉をお互いに発表したりして、教師が教えるということではなく、お互いにこんなことがあって良かった、うれしかったと気づいて、言葉や心を育てるということをやっている学級も多いです。よく学校では「みんな違ってみんないい」という金子みすずさんの言葉を使いますが、色々な子がいるんだということと併せて、うれしかった言葉や態度、そんなところを毎日少しずつ刷り込ませていくというか自然と僕もやってみようとか、私もそういう言葉を使ってみようという心が育っていけばいいかなと思います。

【委 員】全校、全クラスでやってほしいですね。

【会 長】貴重なご意見ありがとうございます。事務局から何かありますか。

【事務局】たくさんのご意見ありがとうございました。

今日皆さんから色々お話を伺ってそれぞれお互いに少しずつ理解し合えたと思いますので、今後さらに連携していける事業等について検討していけたらと思います。

## (2) 報告事項

事務局より説明

【会長】ネットトラブルに伴ういじめに発展するケースや事例がありましたらご紹介いただければと思います。

【委員】別件でしたが、お子さんの携帯の中身を確認する必要があったりするのですが、未だに「〇〇君、明日からハブこうね。」といった内容も見受けられます。あとは言葉のやり取りでお互いに誤解しているというものもあります。この間中学校の先生に聞きましたが、ある子が「何でくるの？」と聞いたところ、その意図は手段や方法のことだったのですが、受け取った方は「私、行っちゃだめなの？」となってしまう、そこから、ぎくしゃくしてトラブルに発展したということでした。普段の話し言葉でメールをしますので、これもネットトラブルと言えばネットトラブルです。学力向上ではないですけれども、誤解を招くこともありますので、言葉の向上といった面も必要だと思います。

【委員】国語力は大事ですね。

【会長】全体を通してよろしいでしょうか。それでは本日の議事は以上です

## 4. 事務連絡

【事務局】ありがとうございました。貴重なご意見、非常に参考になりました。

## 5. 閉会 副会長